

科目名		授業形態	担当教員名	
放射線安全管理学演習		演習	野沢井 隆・田中 悟・鈴木 保・木田 瑞恵	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
放射線測定装置の操作法を理解し、実習を通して放射線安全管理学に関する知識を習得する。 実験A サーバイメータ（電離箱，GM管，シンチレーション）のエネルギー依存性 実験B ペルチェ冷却式霧箱によるα、β、γ線の観察 実験C X線CT装置でのCTDIを用いた線量測定 実験D 熱ルミネセンス線量計の特性				
授業の到達目標				
1. 実験から得た測定値を整理・評価・考察することができ、実験報告書を作成できる。 2. 放射線測定器の使用方法を説明できる。 3. 診療放射線技師として放射線安全管理の必要性を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	演習ガイダンス			
2	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
3	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
4	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
5	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
6	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
7	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
8	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
9	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
10	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
11	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
12	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
13	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
14	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
15	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	80%	レポート内容を評価する		
小テスト				
平常点	20%	実習態度		
その他		正当な理由なくレポートの提出がない場合には不可とするので注意すること		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
新・医用放射線技術実験 基礎編		田中 仁 他	共立出版	
アイソトープ手帳 11版		日本アイソトープ協会	丸善	
自由記載	各項目後に課したレポートを受講態度を加味して評価する。			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
実験説明は教室にて行うが、実験は各班に分かれて各実験室で実施する。				